

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2790800136		
法人名	社会福祉法人 浪速松楓会		
事業所名	グループホームサボテンの花		
所在地	大阪市東住吉区西今川4-22-11		
自己評価作成日	平成 30年 1月 9日	評価結果市町村受理日	平成 30年 3月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2790800136-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 2月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夕食後に入浴希望者は出来る限り実施させて頂き、週3回の入浴に取り組んでいる。屋上菜園で利用者に出来た野菜の収穫をさせて頂き、職員と共に調理している。外出行事にも力を入れており、気候の良い日は近隣のスーパー等に外出し、おやつや買い出しをしたり、誕生日の当日食べたいものを職員と共に外食する機会を設けている。季節に応じて春は遠足、夏は夏祭り、秋は敬老会、冬はクリスマス会等必ず月1回何かしらの行事を行い、四季を感じて頂く様に対応している。利用者様の異常の早期発見に努めており、些細な状態変化があれば、直ぐに看護師やかかりつけ医に報告している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サボテンの花言葉「暖かい心」を理念に掲げています。認知症グループホームは認知症支援の専門性が高いホームであるとの意識を持ち、職員の教育に力を入れています。利用者一人ひとりの生活歴を把握し、希望や要望を丁寧に聞き取り、24時間シードに基づいて、できることは見守るなど、丁寧なケアが実践されています。管理者と職員の風通しが良く、職員間の信頼関係が築かれており、お互い気になることは注意し合い、職員も楽しみながら、ケアを行っています。
1階が小規模多機能型居宅介護、2・3階がグループホームです。都心にあるホームですが、屋上は広く、夕涼みの場ともなっており、田園や近隣の民家、高速道路を眺めることができ、開放的な空間となっています。また、菜園もあり、利用者と一緒に季節の野菜や果物を栽培して楽しんでいます。芋、苺、トマトなども栽培し、食卓に上ることがあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【利用者がその人らしい生き方、暮らし方が出来て、利用者の心に花が咲くように温かい心を持ち続けて利用者を支援します。】を事業所理念として明記している。職員は、地域密着型サービスの意義を踏まえて理念を具体化し、【利用者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることを支えます。】とパンフレット等に表記して、地域との連携づくりに取り組んでいる	ホームの名称は、サボテンの花言葉「暖かい心」から付けられました。事業所理念にも「利用者がその人らしい生き方、暮らし方が出来て、利用者の心に花が咲くように温かい心を持ち続けて利用者を支援します」を掲げています。管理者は、職員の働きやすい環境を整えることにも力を入れており、ともに理念を具現化できるよう努めています。職員同士の信頼関係も厚く、利用者の生活歴や生活スタイルを大切にしながら、一人ひとりに応じたケアが実現されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、中井神社の夏祭り、初詣は積極的に参加できる様に努めている	日常的に、管理者、職員とも地域と繋がることを大切に考えており、散歩や買い物へ出かけて、近隣の人達と挨拶を交わしています。小規模多機能の事業所を併設していることから、地域で暮らす通いの人達との交流もあります。町内会の回覧板や運営推進会議を通して、地域の行事の情報が得られ、祭りなど地域行事にも参加し、交流が深まってきました。	地域との繋がりができてきました。次のステップとして、認知症の学習会や地域での役割を担うなど、地域貢献活動に努めてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、委員や地域包括支援センター職員を通じ認知症ケアについて話し合う機会を設け、ケアの方法を理解できる様努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第 4 土曜日に定期開催(2 か月に 1 回は書面のやり取りで実施。しており、参加者は、利用者、家族、町会長、民生委員協議会委員長、地域包括支援センター職員を選定している。会議では、職員が利用者の状況や行事、事故及び対策、苑内研修、人事異動、事業所の取組み、介護保険法改正等の報告を行い、運営の問題点や良かった点等も報告している。また、感染症対策や地域交流等についても議題にし、委員からの意見や助言をして頂いており、出された助言等は、事業運営に出来るだけ活かしている	運営推進会議は、開催規程に沿っておおよそ 2 か月に 1 回、年 6 回実施しています。そのうち、年 3 回は行政が作成したフォーマットを用いて、書面でのやり取りで会議への意見を聴取しています。運営推進会議録は、ホームの情報や会議で出された意見を丁寧にまとめ、家族に送付しています。会議録は玄関先に置き、誰もが閲覧できるように公開しています。また、運営推進会議を通じてグループホームやサービス付き高齢者向け住宅、介護保険の情報など分かりやすく伝えていきます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者には、諸問題を話し、相談に乗ってもらっている。大阪市福祉局高齢者施策部高齢施設課には、施設運営上の疑問点等があると問い合わせにてご指導頂いている	市が主催するグループホーム連絡会があり、定期的に会議が行われています。事業所の実情を伝える場として、また、グループホーム間で空き情報なども共有し、地域の認知症の人達の生活を支えています。市や地域包括支援センターとも、日常的に連携を図っています。事故発生時には、速やかに市へ届け出ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は(身体拘束を行わない方針)を相互に確認し合い、利用者の安全を守りながら自由な暮らしができるように取り組んでいる。ユニット玄関、各階のエレベーター、居室のベランダの出口等については、安全確保の為に施錠している現状であり、開錠できる時間があるか運営推進会議にて都度検討しているが、開錠する事によるリスクを懸念する意見が多い為開錠には至っていない	管理者、職員は身体拘束をしないケアの重要性を認識しています。マニュアルを整備し、法人主催の定期的な研修、DVDを用いての研修も実施しています。特に、虐待についての管理者の意識は高く、虐待予防のために職員の働く環境や教育が重要であると考えており、職員のフォローを積極的に行っています。玄関やエレベーターは、安全面を優先して、現在は施錠しています。運営推進会議や家族との話し合いの中で、施錠による利用者の精神的なストレスなども家族へ伝えながら、開錠に向けて、家族の同意を得られるように働きかけています。外へ出たい様子をキャッチした場合、一緒に付き添い、散歩に出かけています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならない事を職員一同が信念を持って取り組むよう心掛けている。また都度ミーティングのなかでも体制の整備や虐待防止のための関連法について研修する努力を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修に参加を促し、大阪市高齢者相談支援サポート事業について年に1回管理者より説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、重要事項説明書を読み、説明を行い、その内容を十分理解して同意頂いた上で契約の締結をしている。なお、契約に関する疑問点等があれば、都度説明させて頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回担当職員が日々の様子を写真付きの書面に記入し、家族に送付している。家族が来られたら管理者や職員は出来る限り面談し、利用者の近況を報告している。対応可能な要望内容であれば実現している	利用者一人ひとりの担当職員を決めており、行事の希望や食べたいものなど意見を聞くように心がけています。職員は利用者の声や家族の声をできるだけ聞き取り、「もっと外出の機会を増やしたい、足腰の筋力が低下しないよう関わりたい」など、日々のケアの実現に向けて努力したいと考えています。毎月、一人ひとりの体調やホームでの利用者の様子を丁寧に記した「サボテンの花だより」を送付しています。また、意見や要望は職員会議で共有し、支援に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者出勤日は必ずフロアーに行き、現場の状況や意見を聞く様心掛けている。	管理者は、職員が働きやすい環境を整えるために、各フロアの様子を見守りながら、日常ケアにおいてフォローをしています。管理者は、年 2 回の面談以外にも、職員が自由に意見を言える場作りが大切と考え、職員と日常的にコミュニケーションを図っています。職員の管理者への信頼は高く、ケアの充実に繋がっています。法人として、勤務異動希望を聞く機会を設けています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、リーダーや管理者から提出された人事考課を公平に分析し、経験、実績を加味して給与、賞与に反映している。職員の労働意欲を削ぐ事が無い様、向上心をもって働ける環境づくりに心掛けている。年 2 回の賞与とは別に目標達成度賞与があり、職員自ら立てた前年度の目標が 1 年間を通して達成出来ると、6 月度に1回正職員のみ賞与が与えられる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は年間計画表に基づいて行われ、参加者には研修報告書を提出する事で手当が支給される。参加出来なかった職員には、当日の資料及び研修報告書を回覧し、感想文の提出を指示している。代表者は年2回の人事考課の内容から職員の能力を把握しており、職員のスキル等で管理者が、適宜外部研修への参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉区のグループホーム連絡会に入会し、積極的に他施設への見学会に参加し、学んだ事を共有し、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前には本人のアセスメントを行い、本人、家族の困っている事、不安要望を聞きとり、本人、家族が何でも話せる様な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の訴えを十分傾聴し、必要な情報を提供している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人の意向、家族の要望等を勘案して、基本的には在宅生活の継続を勧めているが、在宅生活の継続が困難であればグループホームに入所するべきかどうか十分に検討し、利用する事を提案させて頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活習慣や価値観を尊重し、認知症ケアを重点にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が望む生活を送る事が出来る様に家族の協力も得て関係を築く様にしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が住み慣れた地域との繋がりを大切にし、途切れる事が無い様、駒川中野商店街へ買い物に行ったりしている	職員は、入居後も家族や友人が訪問しやすいような環境づくりに努めています。馴染みの商店街への外出やお墓参り、外食など、入居前までの生活が継続できるよう家族の協力も得ながら、支援しています。希望があれば、手紙や年賀状の代行など、できるだけ関係がとぎれないように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に会話に加わり、人間関係が円滑になる様、レクリエーション等を通して利用者同士が必然的に会話をする様な機会を設けている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約が終了しても、ご相談等の連絡があれば対応しており、状況に応じて、転居先を面会に伺う事もある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成前には必ず本人、家族の意向を聞いており、日常生活の中で本人とのコミュニケーションを密に行う事で意向を把握する様にしている	入居時に家族の協力を得ながら、入居前の生活歴と共に、どのような暮らしをしたいかなど思いや意向を聞き取り、書面に整理しています。希望として出された、夕食後の入浴や起床時間なども、本人の生活スタイルに合わせて対応しています。また、日常生活での詳細な希望についても、24 時間シートに記し、ケアの実践に繋いでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報提供を基に、本人とのコミュニケーションを通してより詳しい生活歴、趣味、嗜好等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後 1 か月は本人の状態を把握するためにも記録をより密に収集している。そうする事で、本人のADLや様子を把握し、個別介護が出来る様に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	24 時間シートを作成し、ケアの統一を図っている	計画作成担当者は、入居時に利用者、家族の希望を把握したうえで介護計画を作成しています。入居後も担当職員と共に、利用者の要望を把握し、概ね長期目標を 1 年、短期目標を 6 か月として、見直しの機会を設けています。情報は、毎月の会議で話し合われており、24 時間シートに反映され、本人の生活を大切にしたい取り組みが実践されています。24 時間シートには、利用者一人ひとりの日常の暮らし、身体面、趣味や関心ごとなどが記され、できる力は維持できるよう、具体的な計画が作成されており、日々記録に残しています。また、会議では、毎月一人ひとりの利用者の留意点を話し合い、経過記録用に整理し、モニタリングを行い、計画の見直しに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあれば介護支援専門員、管理者に報告している。些細な状態変化であっても詳細を記録する様徹底している。毎月記録を基に月間モニタリングを実施しており、見直しを実施している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用を希望された家族にも法人内での対応出来るサービス及び在宅生活での継続についての他の介護保険上のサービス利用も説明している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣区の地域包括支援センターを把握しており、本人にとって必要な地域資源を提示している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時には本人、家族の要望を確認し、希望される医療機関で医療を受けられる様支援している。利用者、家族の希望があれば、提携医療機関の訪問診療を受ける事が出来る旨説明している	ホームでは、利用者、家族の希望する医療機関に受診できるよう支援しています。協力医療機関より月に2回の定期往診、訪問看護師の週 1 回の訪問があります。日常的には、併設の小規模多機能事業所の看護師による健康管理が行われています。夜間や緊急時などには、いつでも往診に来てもらえる医療体制も整っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師が 1 週間に1 度定期訪問し、日常の健康管理を行っている。日々の生活の中で異常や問題に気づいた場合、24 時間、看護師と連絡が取れるオンコール体制を取り、適宜訪問したり、かかりつけ医から指示を仰いだりしている。小規模多機能型居宅介護配属の看護師も同等の対応を実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要な場合は、担当医から症状や病状に応じた病院の紹介を受け、相談等が出来る体制にしている。また、入院した場合は定期的に介護支援専門員、管理者が病院に行き、本人の状態を把握に努め、早期退院に向けた情報交換を病院関係者を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化における指針を説明し、書面で渡している。その際要望を家族から聞いているが、実際に重度化した場合及び重度化する可能性がある場合は、必ず家族とまず事業所として対応が出来る事を説明し、方向性を話し合う事としている	ホームでは「重度化に関する指針」「看取りに関する指針」を作成しています。入居時には書面で説明し、同意書を交わしています。また、入居後も利用者の状態に応じて話し合いをしています。現在、積極的な看取りへの支援はしていませんが、同法人の様々なサービスを紹介しながら、一人ひとりの利用者、家族の要望に応じた対応を心がけています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応については法人内研修にて法人内の看護師より教育を受けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年 2 回実施する事としており、夜間、昼間想定として各 1 回ずつ 5 月、11 月に定期的実施をしている。また運営推進会議にて実施報告を行い、事業所が地域で協力出来る事を報告している。防災訓練は 1 年に 1 回 6 月に実施している	「防災対策マニュアル」「火災予防マニュアル」を作成し、年に 2 回、自主消防避難訓練を実施し、消防署へ報告しています。区の防災マップを数か所に掲示し、誰もが、いつでも避難場所が確認でき、対応できるように意識付けています。ベランダや屋上、非常階段など、避難経路は数カ所あります。 電気設備やガスの点検、避難経路の障害物などについてのチェックリストを作成し、毎月点検しています。災害時の備蓄は、水や食料品、おむつなど保管しており、年に 1 回期限の管理も行っています。	居住場所が、2・3 階であり、災害時の職員のイメージトレーニングが重要となります。次回の避難訓練時には、利用者と共に避難経路の確認や避難にかかる時間なども測定し、災害に備えて、より具体的な訓練を実施してはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者がその人らしい生活を送る事が出来る様、言葉遣いや対応に注意している。新職員の入職時には利用者に対する接遇に注意を払う様指導している。言葉遣いが悪いと気づいた場合その場で職員間同士注意出来る環境に努めている。管理者も出来るだけフロアで仕事をし、気にかかる職員がいれば注意する様努めている	管理者は利用者を日々支援する中で、一人ひとりの人権を尊重しプライバシーを守るには、言葉遣い、対応の仕方が大切と考え平素から注意し、特に新入職員の接遇の指導に力を入れています。職員は利用者に対してやさしく丁寧な言葉遣いをしています。気付いたことがあればその都度、管理者、あるいは職員間で注意したり話し合ったりできる雰囲気があります。管理者は職員の良いところを伸ばすように努めながら、利用者に対する接し方、ケアが十分であるよう気を配っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定が出来る様な声掛けや対応を心掛けており、うまく自己表出が困難な利用者には選択肢を提示して対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人一人の生活リズムを大切に、日常生活の継続を支援している。レクリエーションや行事は、利用者自身が参加するかどうかを毎回確認している。入浴は、本人の希望に合わせ夜間浴も実施している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやお洒落を継続出来る様に、化粧の持ち込み等を容認し、本人、家族の思いを尊重している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の ADL に応じて盛り付け、片付け、調理段階の味付けの確認を利用者と共に実施する事もある	朝食、昼食は業者から届けられた食材を職員が調理し、夕食は調理されたものがチルドで届けられ、職員はそれらを温め、ごはんのみそ汁をキッチンで作っています。朝食はパンにするか、ごはんにするか選択することができます。利用者の身体状況によりミキサー食、刻み食、とろみをつけるなど食べやすくして提供しています。利用者・職員が屋上で栽培している野菜の収穫時には食膳をにぎわすこともあります。また誕生日などの特別な日には、利用者は好きな献立を選び、調理に参加したり、また、希望で職員と外食することもあります。食後に自分で食器を下げたり、おしぼりをたたむ手伝いもしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	最低1日1000cc以上は水分を摂って頂ける様に努めている。本人の禁食や嗜好に対応し、嚥下、咀嚼状態を把握した上でミキサー食も提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを実施しており、口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて歯科往診を依頼する事もある		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者が自分で出来る事については極力見守りながら、状況に合わせて支援している。一人一人の排泄時間に合わせ、出来る限りトイレ誘導を実施している	利用者の排泄記録をとり、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。自立または自分で意思を表明できる人、すべて介護の必要な人などそれぞれの状況に合わせて、見守り、トイレ誘導などきめ細かく支援しています。利用者の羞恥心や誇りを傷つけないよう声かけにも注意しています。利用者のトイレでの排泄が継続できるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	設備面で、排便時には、トイレ内のバーを使用する事で、体を前屈し、自然排便が容易になる様に工夫をしている。かかりつけ医には排便状況を報告して内服薬の調整をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や意向に出来るだけ沿って、時間帯を決めており、週3回の入浴を実施している。毎回入浴時は一人一人お湯を交換洗浄し、好みの湯加減で入浴して頂いている。入浴拒否される場合には対応する職員を変更するといった対応をし、本人の気分を損なわない様対応し、清潔が保てる様支援している	利用者は平均週3回入浴しています。朝に入浴したい人、夕食後に入浴したい人など意向はそれぞれ利用者により異なりますが、できるかぎり希望に沿って入浴できるようにしています。利用者一人ひとりお湯を入れ替え、職員のケアを受けながらゆっくり入浴を楽しむことができます。入浴を好まない人にも時間を変え、人を変え、言葉かけを変えるなど工夫して入浴を促しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや生活習慣を大切にし、その人らしい生活を送れる様支援している。特に入床時間、起床時間については本人に合わせており、職員から臥床、離床の強要はしていない		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、本人の使用している薬や内服薬の用法や用量を理解して服薬して頂いている。また、一人一人の最新の薬情を保管しており、何か異常などがあれば直ぐに確認出来る状態にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意分野や好み等を把握し、楽しみや役割を持って生活して頂ける様対応している。また、毎月最低1回は季節に応じた行事を行い、利用者からの要望の実現を図る様努力している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のおやつは基本的に決めておらず、気候の良い際は職員と共に外出し、本人にその日のおやつを決めて頂いている。季節に応じて車で公園に外出したり、食事に出掛けたりもしている	気候や天候にもよりますが、外出には力を入れています。毎日のおやつを買いに、近くの商店街へ出かけることも利用者の楽しみの一つです。外出したい気配を察知すると職員は一緒に外に出てホームの周囲を歩くことにより、気分転換を図っています。近くの公園に出かけることもあります。初詣、花見、紅葉等、さらにお寿司、食事など車で出かけることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所内の金庫で預かっており、本人が希望すれば使える環境としている。必要な物品があれば、職員が付き添って買い物に出かける事もある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	常に電話で連絡をとれる環境にある。 本人から希望があれば葉書を用意し、書く事もある		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	4 階建てで1階に玄関があり、エレベーターを昇って 2、3 階部分が居住空間となっている。食堂兼居間には畳スペースがあり、利用者が横になったり、座って外を眺めたり、多目的に使える場所となっている。ソファやテレビを置き、ゆっくりくつろぐスペースも用意している。廊下には手すり洗面台があり、トイレは各階3か所設置し、天井には脱臭装置、フローには空気清浄機を置き、室内を清浄に保つ工夫をしている。屋上には利用者が楽しめる家庭菜園を設けている	4 階建てのうち、1 階が小規模多機能の事業所で、2・3 階がグループホームです。ホームの玄関先には、サボテンの鉢が置いてあります。2・3 階は、つき当りに食堂と畳の空間があり、オープンキッチンがあります。キッチンからは、調理のにおい、音など、生活感に溢れており、利用者の五感を刺激しています。また、畳のスペースは、利用者と一緒に洗濯物をたたむなどの作業場ともなっています。屋上には、広いテラスがあり、利用者の高さに合わせた菜園が設置しており、季節の野菜を栽培しています。職員は、利用者と一緒に芋ほりや野菜を収穫しています。テラスからは、近隣の風景を眺めることができ、開放感ある空間は、夕涼みの場所ともなっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には畳を敷いたスペースにて、テレビを見たりされている。フロアーのテーブルには利用者分の椅子を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には電動ベッドとクローゼットを備え付けており、ベッドの位置は状態に合わせて変更できる造りとなっている	居室には、電動ベッド、クローゼットを設えています。危険物と冷蔵庫以外は自由に持ち込み可能です。利用者は、今まで使い慣れたタンスや机や椅子、仏壇、テレビなど、馴染みのものを持参しています。居室内には、家族の写真やぬいぐるみ、作品などを飾り、生活スタイルに合わせて居心地良く過ごせるように支援しています。入り口には、利用者が作成した作品を目印として飾っており、自分の部屋が分かるような工夫もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーの廊下、トイレ、浴室には適切な手すりを設置して安全を図っている。苑内では車椅子を極力使用せず、職員が手引きでの歩行介助実施し、歩行生活の継続を図っている		